

医療と救急・消防を支える体制

(質問) コロナ禍で救急要請が増大しているが、①本市の現状、②令和5年4月以降の定年延長に伴う高齢期職員の推移、対応策を問う。

(答弁) ①令和4年の救急件数は10,755件で、令和3年の8,907件と比べ21%増加し、過去最高となった。一方、搬送困難事案は、令和3年の175件に対し令和4年は129件と26%減少し、医療機関との連携により円滑な救急搬送が行われている。②本市消防本部の定員は215名で、60歳以上の割合は令和18年度が約20%とピークとなる。適切な定員管理に努め、消防体制の強化を着実に推進する。



屋外バスケットボール施設について

(質問) 本市は、バスケットボールが盛んな市でもある。小中学生の競技者だけでも約1,000人を超えており、練習場がかなり不足している現状である。このような現状を解消していくためにも、屋外バスケットゴール施設の増設をお願いしたい。

(答弁) 新たなバスケットゴールの設置については、地元自治会長と協議を行い、施設利用時の音など、近隣住民の意見や周辺環境を考慮して慎重に検討していきたい。

その他の質問 ○「認知症行方不明者ゼロ」～安心して暮らせる地域に向けて



認知症高齢者等安心見守り事業

(質問) 高齢者が住み慣れた地域で希望を持って過ごすことができる支え合う地域社会の構築が必要である。認知症高齢者等安心見守りシールおよび安心見守り保険について問う。

(答弁) 安心見守りシールは、認知症高齢者が行方不明になったときに発見者がシールのQRコードを読み取ることで、速やかに家族などに安否が通知され、早期発見や保護につながる。安心見守り保険は、事故により家族などが損害賠償責任を負う場合に、補償を受けることができ、保険料は市が負担する。

その他の質問 ○ポイント事業と還元



三重交通Gスポーツの杜の件

(質問) 三重交通Gスポーツの杜鈴鹿を拠点としたエリアの都市計画の見直しについて問う。

(答弁) 現在進めている都市マスタープランの改定作業においては、新たに都市計画決定された鈴鹿亀山道路も踏まえ、スポーツの杜鈴鹿を含む周辺が今後もスポーツ・レクリエーションゾーンとして交流が図られるよう土地利用を促進する。また、リニア中央新幹線三重県駅開設に伴い、本エリアを取り巻く環境は大きく変わることから、自治体間競争に勝ち抜いていけるようなまちづくりに努める。

その他の質問 ○市道の整備



ヤングケアラー対策について

(質問) ヤングケアラーの実態把握には、児童生徒へのアンケート調査が重要と考える。また、ヤングケアラーの支援を視野に入れた「子ども条例」の制定が必要と考える。

(答弁) 児童生徒に向けてヤングケアラーについての周知を進めていく。また、他県や他市町で実施されているアンケートや実態調査を参考にしながら、早期発見・早期支援につながるよう実効性のある調査を検討する。また、「子ども条例」の制定に向け進めていく。

その他の質問 ○デジタル社会に向けた取り組み ○鈴鹿市手話言語条例



職員の能力向上への取り組みについて

(質問) 技術者不足が危惧され、特に技術とサービスが混在してきたICT分野や、技術継承が難しい土木分野への時代に適応した学びが必要である。職員能力向上の対応状況を問う。

(答弁) 鈴鹿市人材育成基本方針に基づき対応している。ICT分野ではクラウド・バイ・デフォルト原則の浸透で専門知識習得の必要性を緩和させ、また、土木現場では年長・若手職員をペアで担当させ知識継承を図っている。情勢変化を捉え、能力向上に努めていく。

その他の質問 ○鈴鹿市の獣害対策 ○学校や園でのマスク着用指針

